

第一精工舎



石田社長

わが社の「得意技」

きらりと光る

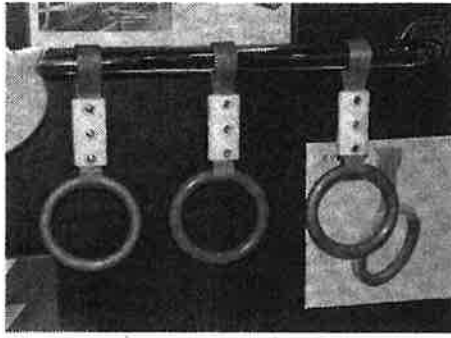
第一精工舎（本社・大阪府大東市、社長・石田恭彦氏）は、2001年の創業のプラスチック製品メーカー。大手樹脂原料メーカーの研究者だった石田社長が同社を興した。同社は創業時から汎用品ではなく、「一品一様」を大切に事業に取り組んできた。プラスチック製品は通常、素材をペレット（粒子状）で加工し製品化する。

樹脂パウダーに銅粉を配合

銅の抗菌作用でコロナ対策

れがいわば業界の常識となっていて、原料メーカー主導のペレット経由では「一品一様」の製品化は難しいと石田社長は指摘する。「一品一様の決め手は、原料（樹脂とそれに組み合わせた素材）を従来のペレ

性能がある。ウイルスはステンレスやプラスチックの表面では付着して3日間生存可能だが、銅の表面上ではわずか4時間で死滅する。このことは米国立衛生研究所（NIH）で立証済み。新型コロナウイルス対策で銅の殺菌効果を生かし、吊り革や手すりカバーなどで提案していく」（石田社長）。



殺菌グッズ「プラッパー」吊り革

り、プラスチック製品を一貫生産している。これが当社の存在意義であり、大きな特長となっている」（石田社長）。樹脂パウダーに混ぜ込む素材は金属（ステンレス粉・鉄粉・銅粉・アルミ粉など）だけ

品であり、特許申請中。原料はプラスチック樹脂の粉を銅粉と混合したもので、それに添加剤を加え射出成形で加工する。特筆すべきは最大70%まで可能という銅の配合比率で、業界において類似品がない。今後、金型で射出成型し吊り革や手すりカバーなどを量産化する方針。

（白木 毅俊）

「周知の通り、銅に殺菌

第一精工舎は製造拠点が大阪府大東市に4カ所。従業員数は110人（派遣8人を含む）。年商は29億円（19年9月期）。